

群馬県立文書館

文書館だより

第35号 平成12年7月

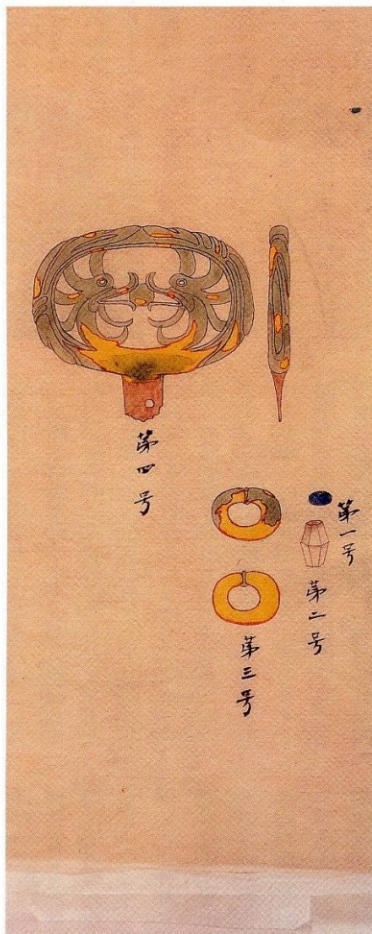
群馬県立文書館には、明治時代前期において県内の古墳から出土した遺物に関する報告書が多く保存されています。

考古学が現在のように学問として確立していなかった当時、「発掘がどのような方法でおこなわれたのか？また出土状況や出土遺物はどういったか？」などを確かめるのは極めて困難といえます。

もともと当館には幸いにも、県内の古墳から出土した遺物に関する

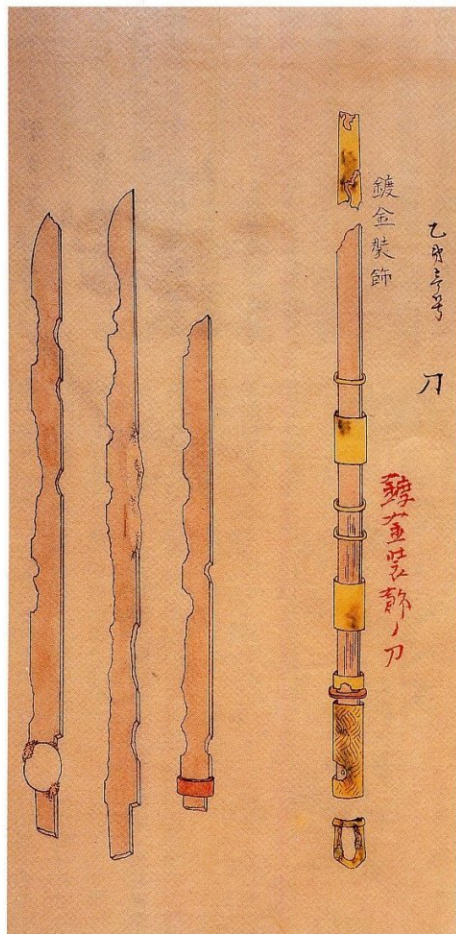
報告書がブリミティブながらも彩色の図説入りで多く残っており、この中には、「太刀」や「剣」などの現状を提示して復元を試みたものもあります。

当館は文書を収蔵し保管する機関のため、文献中字とのかかわりが深いと印象づけられますが、関連分野である考古学との学際的な領域も併せ持っている面もあります。



古書古器物書類 (行政文書1945)

(左) 那波郡下茂木 (現・玉村町)
山林出土環頭太刀等



(右) 西群馬郡下和田村 (現・高崎市)
人塚出土刀

〈収蔵資料紹介〉

「古書古器物書類」明治初期県内出土品の記録

副館長 秋 池 武



とと、添付資料に非常に緻密なものが含まれる等の特徴があります。

ここに紹介する「古書古器物書類」は明治時代初期の群馬県行政文書として文書館に収蔵されているもので、表紙には「至明治十一年至同十五年「古書古器物書類」第一冊庶務課」とあり、左肩には「明治十八年七月庶務課編輯係ヨリ勸業課農商係へ引継書四冊之内同廿一年再ヒ庶務課へ引受ク」と添え書きされています。このことから、簿冊は当時の群馬県の庶務課編輯係所管のもので、その後勸業課に移り、再度庶務課に引き継がれてきたことがわかります。

内容は、編輯係が地誌編纂の為借用した古書類やこの期間に県内各地から発見、報告された遺跡や遺物に関する書類と当時上野公園で開催された内国勸業博覧会（勸業博覧会）へ出品する出土文化財選定に關係した書類が少量含まれていま

す。この内最も多いのは、この時期県内各地で発見された古器物、すなわち現在の埋蔵文化財出土品の報告書と、これに關係するものです。これは行政文書として作成されている關係上、重要事項、検討課題の多いものは一連の書類が多いこ

とと、添付資料に非常に緻密なものが含まれる等の特徴があります。

簿冊の中からこれらの内容を少し見ても、最初に綴じ込まれているのは前橋大室の前二子古墳に関するものです。書類は明治十一年に地元住民により石室が開口され、埋葬時の様子がそのまま発見されたことを伝え、宮内省への報告、係官の派遣、博物館との交信、天覧に関するものまで一連の書類が綴られています。ここに添付された石室詳細図（当頁の図参照）、鳥瞰図は発見時の状態を今日に伝える資料として良く知られています。またこの古墳の発見は、後の、イギリス公使アーネスト・サトウも調査のため明治十三年（一八八〇）に来県するなど大きな話題となったものです。

この他、明治十二年（一八七九）には藤岡市白石二子山古墳石室からの出土品報告と国保有への経過、同十四年（一八

八二）には新田郡大島村で開墾中に瓶があたり、ここから多量の古銭が出土し、買い上げられて博物館に納められた資料、同十六年（一八八三）四月には沼田市内の清水越え新道破損部修理中に金無垢の板金一枚が発見され、官有地からの発見であったため買い上げなく博物館に納められたこと、同十七年（一八八四）二月には碓氷郡郷原村字宇上ノ平（現松井田町）で開墾中に古墳石室にあたり、出土品が充実していたことから松井田警察署、郡長から県に報告され、付図には鈴、柄頭、円筒埴輪等の出土品が図示されています。この出土品は結局遺失物取扱規則により地主の所有が認められています。同十八年（一八八五）四月には那波郡下茂木の山林から環頭太刀（巻頭写真左図参照）、耳飾り、玉等が発見された報告書があり、ここには着色された精巧な模写図が添付されています。これら出土品も松井田郷原同様、地主の所有が認められています。

この簿冊には、このような民間からの発見のみでなく、

当時国家事業として進められていた岩鼻火薬製造所と高崎線工事に関わるものも含まれています。

明治十三年（一八八〇）同十五年（一八八二）には西群馬郡岩鼻町（現高崎市岩鼻町）群馬の森・原子力研究所の陸軍省の岩鼻火薬製造所建設工事中に七方所から刀等が出土し、群馬県や国の關係各省との協議の結果、出土品が博物館に納められた経過を示す資料があります。

また、明治十七年（一八八四）には高崎線建設工事中の西群馬郡倉賀野駅地内大応寺鉄道敷地（現高崎市倉賀野町）古墓四力所から刀、短刀、渡金馬具、陶器等が出土、同じく和田村地内（現高崎市和田町）人塚鉄道線路用土掘削の祭に刀、短刀等が出土し、工部省、農商務省、博物館、土地所有者のやりとりの關係資料が綴られています。ここには添付資

勢多郡西大室村南辺古墳窟内図（現前橋市）



この簿冊には、このような民間からの発見のみでなく、

料として非常に緻密な以下の詳細図が綴じ込まれています。

甲部（倉賀野駅宇大応寺古墓四カ所）

刀・鐵鐔・鐵鏃・鐵矛・鍍金環・瓶・馬具・鐙・唐鞍等

乙部（下和田村人塚并銭塚等）

刀・鐵鐔・小刀等

ここに掲載された遺跡位置図、出土品の模写図は一部を掲載（巻頭写真右図参照）しましたが、着色されて非常に詳細

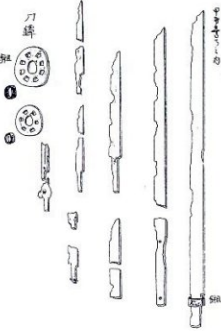
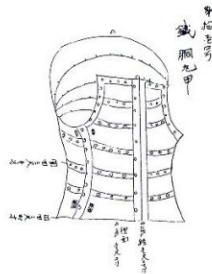
吾妻郡山田村字清水出土土器（現中之条）



に描かれていることから当時の遺跡の様子、遺物の特徴を今日に良く伝えていきます。

この様に、この書類綴りからは県内明治初期の文化財行政の姿を知ることができるとともに、今日では伺い知れない遺跡や出土品の様子も含まれ、学術的資料としても利用価値の高いものが多く含まれています。

碓氷郡若田村字大塚出土鎧（現高崎市）



高崎線建設工事中出土馬具・刀類（現高崎市倉賀野大応寺等）

Q&A レファレンス コーナー

Q 小栗上野介忠順の^{たなかま}上野国榑田村での生活はどんなだったのでしょうか。

A 小栗上野介忠順は、慶応四（一八六八）年正月の江戸城大評定で開戦論を主張して譲らず、勘定奉行の職を解かれ、知行地である群馬郡榑田村（現倉淵村榑田）に隠居しました。

榑田村（石高三七五石）は、宝永元（二七〇四）年以来幕末に至るまで旗本小栗家の知行地であり、忠順は他に同郡下齋田村（二七〇石）・与六分村（八八石）、多野郡森村（五六石）・小林村（一〇〇石）と、下野・上総・下総国合わせて二七〇〇石を知行しました。

榑田村での生活については、忠順の『日記』（渋川市後藤惇氏蔵、左下写真）によって知ることができます。慶応四年二月二八日家族と共に江戸を立ち、三月一日榑田村に到着、東善寺を仮住まいとしました。

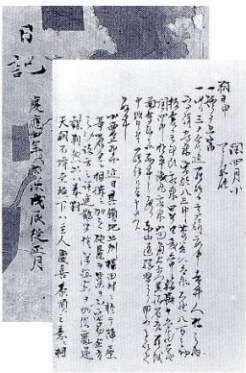
落ち着く間もなく、三ノ倉・川浦などの近郷の村々を巻き込んだ暴徒凡二〇〇〇人が、四日榑田村に押し寄せ、やむなく跡継ぎの又一共々、家来・歩兵・村内の猟師や頑強な若者一〇〇人余を率いて

応戦鎮静しました。この事件は、政府軍に「小栗征伐」の口実を与えることになりました。こんな緊迫した日々の中にあつて忠順は、村内観音山の山頂（四〇〇坪）を開墾し、母屋（間口一二間・奥行七間半）等三棟の家の普請を計画しています。三月六日地所見分、三月一六日屋敷

絵図面を大工に渡し見積りを依頼、四月二八日には一棟目の屋敷の建前が完成しました。その間、小高の^{こたか}地域が水に不自由しているのを知って水路普請を行ったり、また小栗家では三月一四日、夫人道子の着帯の祝いがあり、穏やかな日には母親邦子が養女鏡子と共に摘み草に出かけています。

しかし、東山道総督府から忠順追捕の命令を受けた三藩（高崎・安中・吉井）の兵が東善寺に迫り、忠順は閏四月六日朝、烏川河原で斬首され、四二才の生涯を閉じました。榑田村での生活はわずか二ヶ月余でした。

慶応四年閏四月朔日
（「ぐんまの古文書」より）



新たに閲覧できる

古文書

閲覧点検を終え、新たに閲覧利用できる寄託古文書は次のとおりです。

◎埼玉県上尾市・笛木四郎右衛門家文書

文書の伝存地は、吾妻郡永井村（現利根郡新治村永井）の笛木家です。同家は、江戸時代を通じて代々四郎右衛門を襲名し、永井村の組頭や年寄、永井村・吹路村の兼帯名主をつとめるなか、三国街道永井宿の本陣及び問屋兼年寄もつとめていました。また、明治期以降は、永井村戸長あるいは永井村・吹路村の戸長をつとめました。

笛木家文書は、総点数約二〇〇〇点の文書群で、そのうち約八割はすでに閲覧可能でしたが、今回すべての文書が閲覧可能となりました。内容は、大きく「近世永井村関係文書」「近代永井村行政関係文書」「笛木家私的文書」に分けられます。近世永井村関係文書では、三国街道と永井宿に関する文書が特徴的で、中でも本陣笛木家の万年記録は幕末から明治初年の街道往來の様子などを知ることができます。また、笛木家の金融、酒造、越後米流通などの文書も残されています。詳しくは、『群馬県立文書館収蔵文書目録18』をご覧ください。

（請求番号P八四一八）

マイクロ収集文書では次のものです。

◎福島県伊達郡川俣町・

渡辺弥平治家文書

福島県歴史資料館に寄託されている渡辺家文書のうち、「累世年鑑」または「年鑑」と題されている渡辺家当主によって書き継がれた日誌です。天候や地震などの自然現象、物価や相場などの状況、国内で起きた事件、外国船渡来など日本を巡る状況などが幅広く記されており、幕末から明治初年にかけての様子を窺い知ることができます。

（請求番号P F P九三〇七）

◎福島県立図書館所蔵文書

福島県の蚕種に関わる活字本などのほか、群馬県令から福島県令に宛てた生糸製造器械設置に関して速水堅曹を出張させる旨の通知書があります。

（請求番号P F P九三二〇）

◎佐波郡境町・田島弥平家所蔵文書

第二次閲覧公開分として今回閲覧可能となった文書は、江戸時代後期から明治時代初期にかけての佐位郡島村の村政関係文書と「養蚕日記」「蚕種売捌帳」などの養蚕に関する文書、島村勸業会社に関する定款や規則などがあります。これにより、田島家文書の半分弱が閲覧可能となり、今後も整理が済み次第閲覧公開していく予定です。

（請求番号P F P九四〇一）

◎東毛学習文化センター所蔵史料

「伊東巳代治勲典所」旧蔵の代官書札史料や訴訟処理の判例等を記した「青山秘録」など、書札や書類雛形に関するものが中心です。

（請求番号P F P九九〇五）

◎前橋藩・酒井家文書

姫路市立図書館所蔵の総点数約六六〇〇点の大名文書です。酒井家は、江戸時代初頭より九代約一五〇年にわたって前橋藩主をつとめました。中でも四代藩主忠清は幕府の大老となり「下馬將軍」とも称されました。また、五代藩主忠孝の弟忠寛は二万石を分地され伊勢崎藩主となりました。今回閲覧開始となった文書は、二代藩主忠世の領地判物や朱印状の写し、正徳年間の幕府公用日記等があり、また、藩関係では家臣の跡式に関する藩主の黒印状や家臣分限帳などがあります。

なお、今回閲覧可能となった文書は、同家文書の一部であり、今後も整理が済み次第閲覧公開していく予定です。

（請求番号P F P八二二）

新たに収蔵された

古文書

平成二二年一月以降、当文書館へ寄託・寄贈された古文書は次のとおりです。

◎吾妻郡吾妻町・増田公平家文書

文書の伝存地は、吾妻郡原町（現吾妻

町原町）の増田家です。増田家は、江戸時代に原町の名主をつとめていました。文書は、沼田藩本多伯耆守奉行申渡書や巡見使通過関係文書などの原町名主文書及び増田家私的文書で一四五点です。

（寄託）

◎藤岡市下栗須・新井つね家文書

文書の伝存地は、下久保ダムの完成により水没した美原村大字保美濃山の新井家です。文書は、引越しの際に新井家から持ち出された新井家私的文書八点です。

（寄贈）

◎前橋市天川原町・岩佐昭雄家文書

享保年間の天川原村検地帳及び祖父多一郎氏が使用した明治期の教科書類など約九〇点です。

（寄託）

◎東毛学習文化センター所蔵史料

旧太田金山図書館（私設のち市立）が所蔵していた書札史料などです。

◎前橋市五代町・船戸菅男家文書

船戸家は、前橋藩士で例幣使道五料関所で関所役人をつとめた家です。文書は、五料関所関係文書・通行手形及び五代村関係文書など約九〇点です。

◎渋川市南牧・田中博家文書

田中家は、三国街道空ヶ橋関所で代々定番役をつとめた家です。文書は、空ヶ橋関所関係文書・絵図など約八〇点です。

新たに収蔵した

行政文書

管理受任等 平成十一年に管理委任及び引継により県の各機関から受け入れた文

書は、六、〇二六冊でした。（詳細は表1のとおり。うち環境保全課と経営支援課、用地課、都市計画課の合わせて八十一冊は十年保存書）。

表1 平成11年度文書館管理受任文書室課別冊数

室 課 名	長期	10年	合計	室 課 名	長期	10年	合計	室 課 名	長期	10年	合計
人 事 課	5		5	農業経済課	34		34	都市施設課	99		99
管 財 課	249		249	農業技術課	132		132	下水道課	518		518
学事文書課	1101		1101	蚕 糸 課	11		11	建 築 課	14		14
広 報 課	5		5	畜 産 課	23		23	住 宅 課	84		84
地 方 課	72		72	流通園芸課	10		10	知事部局合計	5786	81	5867
消防防災課	109		109	土地改良課	375		375	学校人事課	52		52
統 計 課	52		52	農村整備課	1		1	文化財保護課	24		24
地域整備課	67		67	林 政 課	14		14	教育委員会計	76		76
保健福祉課	78		78	緑化推進課	52		52	地方公務員			
高齢政策課	37		37	林業振興課	67		67	災害補償基金			
子ども育成課	7		7	森林保全課	126		126	群馬県支部	52		52
障害政策課	32		32	商 政 課	7		7	公立学校共済			
国保保護課	5		5	工業振興課	23		23	組合群馬支部	112		112
医 務 課	92		92	経営支援課	61	8	69	総 計	6026	81	6107
保健予防課	67		67	観光物産課	1		1				
業 務 課	145		145	労 政 課	10		10				
環境保全課	21	2	23	監 理 課	32		32				
生活環境課	384		384	用 地 課	270	62	332				
環境政策課	1		1	道路建設課	167		167				
自然環境課	68		68	道路維持課	480		480				
県民生活課	18		18	砂 防 課	65		65				
農 政 課	188		188	都市計画課	307	9	316				

収集 昨年度の文書整理において県の各機関が廃棄した文書資料中から、文書館が歴史資料と認めて収集したものは、一、六一四冊でした。（詳細は表2のとおり。なお、議会図書館からのものは、郷土資料等）。

表2 平成11年度収集文書部局別冊数

部 局 名	冊数
総 務 部	113
企 画 部	155
保健福祉部	150
環境生活部	148
農 政 部	301
林 務 部	82
商工労働部	73
土 木 部	330
出 納 局	1
地労委事務局	3
議会図書館	99
教委事務局	59
合 計	1514

平成11年度マイクロ複製済図一覽

番号	地 図 名	番号	地 図 名	番号	地 図 名	番号	地 図 名
	検 見 耕 地 絵 図	1306	〃 幡谷村	1247	〃 菅野村	1447	沼田舊郭外貫属屋敷絵図
1282	利根郡横塚村	1307	〃 萩室村	1248	〃 木崎村	1448	沼田舊郭内貫属屋敷絵図
	地券発行にかかる地引絵図	1311	〃 小仁田村畑地引絵図	1249	〃 坂田村	1449	沼田町絵図
		1299	勢多郡多那村耕地略図	1250	〃 古水村	1731-4	甘楽郡七日市町元陣屋地敷屋敷並畑図
39	勢多郡上泉村	1304	〃 根利村	1251	〃 寄木戸村	1731-5	甘楽郡七日市町元陣屋地敷屋敷並畑図
45	〃 堤村	1312	〃 生越村	1252	〃 仙石村	1732	高崎城外陸軍第一経営部所轄地引渡地図
115	〃 荒子村	1318	〃 長者窪村絵図	1253	〃 吉田村		
122	〃 小屋原村	206	山田郡上久方村	1255	〃 下小泉村		
1319	〃 上増田村	208	〃 境野村絵図面	1256	〃 鶴村		
		209	〃 新宿村	1257	〃 鶴新田		
55	群馬郡元総社村鹿絵図面	211	〃 上広澤村	1259	〃 光善寺村		
66	〃 植野村	214	〃 下広澤部	1261	〃 秋妻村		
68	〃 箱田村	220	〃 山地村	1262	〃 石打村		
90	〃 青梨子村	225	〃 安楽土邸	1263	〃 石打村 その二	1278	佐波郡名和村大字戸谷塚村戸谷塚耕地整理組合地区現形図
136	〃 下之城村	228	〃 上仁田山村	1264	〃 狸塚村 絵図面の内一	1279	佐波郡名和村大字戸谷塚村戸谷塚耕地整理組合地区予定図
137	〃 上中居村	297	〃 台之郷	1265	〃 狸塚村 絵図面の内二	1281	群馬県利根郡薄根村大字下沼田村町田村整理予定図
151	〃 大八木村	326	〃 矢場村ノ内里矢場	1266	〃 狸塚村 絵図面の内三		
191	〃 嶋野村	342	〃 丸山村	1269	〃 赤堀村絵図面の五		
201	〃 八幡原村	1320	〃 沖之郷村	238	佐佐波郡波志江邑		
1272	〃 栗崎村	293	新田郡細谷村	241	那波郡馬見塚村		
1284	〃 金古宿地引絵図面全	296	〃 牛澤村	245	〃 長沼村		
1286	〃 上白井村	314	〃 強戸村				
1287	〃 横堀村	332	〃 脇谷村				
131	片岡郡乗附部	335	〃 上田島村				
1316	〃 石原村絵図面	337	〃 下田嶋村				
181	緑萐郡根小屋村地引絵図	1241	邑楽郡瀬戸井村				
1450	〃 上栗須村	1242	〃 上五箇村				
1285	碓氷郡若水村	1243	〃 下五箇村絵図三枚の内二				
1298	吾妻郡川原畑部	1244	〃 下五箇村絵図三枚の内一				
349	利根郡戸鹿野村	1245	〃 上中森村絵図				
		1246	〃 下中森村				

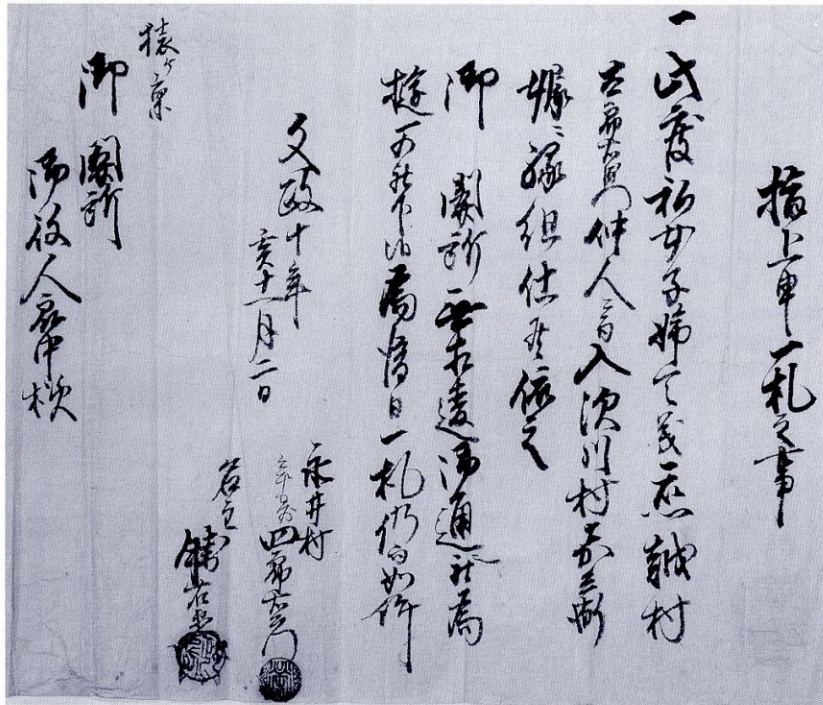
新たに閲覧できる

マイクロ複製絵図

昨年度マイクロ複製化した明治初期絵

図は、左表のとおりです。モノクロマイクروفイルムからの複製は即時にできません。カラー写真複製もできます。

古文書解説コリナリ



埼玉県上尾市 笛木四郎右衛門家文書 請求番号 8418・文書番号 229

今回の文書は、関所通行手形です。難易度は、初心者でもある程度解説できるものと思います。

柱書きの「指(差)上申」は身分の高いものへ申しあげるといふ慣用表現です。

本文一行目の人名「ふて」は変体仮名で「婦」「天」の文字で書かれています。三行目、五行目の「候」は同じ字ですが、くずし方はだいぶ異なっています。近世文書の中では最も頻繁に出てくる字ですので、あまりくずしていないものから「一」までくずし方も多様です。三行目「依之」の下を空け改行していますが、これは平出という書式で、次の「御関所」に対する高い敬意を表しています。また、「御 関所」と二字分空けていますが、これも敬意を表す「関所」という方法で、近世文書でよく使われています。本文最後の「仍而如件」は文末表現の慣用句です。

この文書は、三国街道猿ヶ京(現新治村) 関所を通行するにあつての手形(証明書)です。永井村(現新治村永井)の年寄四郎右衛門の娘(養女)が入須川村嘉兵衛の嫁として縁組するにあたり、関所を通行するため、永井村の村役人が発行したものです。

関所は、江戸時代には「入鉄砲に出女」という言葉の示すとおり江戸への武器の潜入及び江戸からの大名妻子の逃亡を監視することが主目的でしたが、それ以外

に治安・警察目的としても機能していました。上野国(群馬県)内の関所は、中山道碓氷関所を始め十四ヶ所におかれ、全国の関所数の約四分の一にのぼりました。

この関所通行の際に必要なとされたのが関所手形で、女性の通行と鉄砲の輸送には必ず必要で、江戸後期になると男性も使うことがありました。関所手形の有効期限は、発行日から翌月末までが原則でした。また、一般的には関所手形はこのような一紙の証文ですが、中には関所近在の住民などが使う木札の関所手形もありました。

指上申一札之事

一此度私女子婦て義、恋越村

太郎右衛門仲人二而、入須川村嘉兵衛

嫁二縁組仕、候、依之

御 関所無相違、御通し被し為レ

遊可レ被し下候、為二後日二一札仍而如件

文政十年 永井村 年寄 四郎右衛門(印)

亥十一月二日 名主 勝右衛門(印)

猿ヶ京 御関所 御役人衆中様

古文書・郷土史研究団体紹介

富士見村郷土研究会

富士見村郷土研究会は、昭和三十四年（一九五九）に発足した。会の目的は「富士見村の郷土に関する研究をし、村の文化の向上に努めること」で、会員は八八名である。会の活動状況は、次のとおりである。

郷土資料展

毎年秋の「村民祭」に「郷土資料展」を開催している。「郷土の人物展」、「赤城型民家写真展」、「船津伝次平関係資料展」、「村内文学碑拓本展」、「手習所（寺子屋）展」、「養蚕民具展」、「大字誌展」、「郷土関係図書雑誌展」などを行った。

出版活動

「村の歴史シリーズ」を村教育委員会と郷土研究会の合同で発行している。
『地芝居と横室の衣裳』、『明治43年富士見村郷土史』、『ふるさとむかしばなし』、『郷土の偉人船津伝次平』、『目で見る寺子屋教育』、『郷土の先人たち』、『村民のつづる戦争体験記』、『富士見村の樹木』、『村の年中行事』、『村のあれこれ』、『富士見村の石造物』（第13集）ほか。
文化財標識碑建立

村の文化財の標識碑を、村教育委員会と郷土研究会の二者で建立している。
「皆沢焼窯跡」、「船津伝次平の墓」、



出版活動

「漆窪城の跡」、「横室の歌舞伎衣裳」、「時沢の夫婦松」、「米野小学校跡」、「珊瑚寺の板碑と多宝塔」、「萩林庵の阿弥陀像」、「小鳥が島多宝塔」、「不動堂の仁王と多宝塔」、「九十九山古墳」ほかを建立した。

研究発表会

「藍沢無満とその弟子たち」（大友農夫寿）、「赤城南麓の仏像」（品川元治）、「寺子屋教育」（柳井久雄）、「富士見村の子供会史」（大石正光）、「龍ノ口遺跡」（中東耕志）、「船津伝次平とチヨボクレ」（関口角男）、「富士見村の樹木」（佐藤修）など。

そのほか、村内外の見学会、古文書解説講習会、映画会などを行っている。会誌「富士見郷土研究」（現在53号）も続刊している。

（富士見村郷土研究会会長 柳井久雄）

市町村史誌編さん室紹介

高崎市史編さん室

昭和六十三年に市史編さん事業は正式にスタートしました。本市は、過去に二度にわたる市史を刊行しましたが、今回は市制百周年記念事業として、平成十五年の事業終了を目前に、『新編高崎市史』を刊行するものです。

資料編・一二巻、通史編・五巻、民俗調査報告書・八巻、に、石造文化財編、神社・寺院編、さらには市史研究を随時発刊するという大きな事業です。

短期間に大部の刊行計画ということもあり、事務局職員は市史編さん事業規模としては恵まれており、原始古代、中世、近世、近代現代、民俗の五部会のほか、後に必要性が検討された石造物班、神社班についても担当者それぞれ配置して、総勢二二名を擁しております。また、編さん委員二三人、専門委員一七人、調査委員七六人を委嘱しております。

編さんの基である調査活動（資料収集）は、市役所の二度の火災で貴重な文書の多くが焼けてしまったという事情があり、県立文書館をはじめ、関係機関に求めざるを得ないという状況でした。

事業を進める中で、資料の保存・利用の環境が、地方自治体においてはこれまでもあまり重要視されていなかったことを

痛感しました。地方紙編さん事業のみでなく、行政諸事業を進めていく中で、この環境整備は必要不可欠なものであり、当市ばかりでなく、地方自治体全体の課題であると認識しています。

昨今の情勢の下で、この問題は、早急に解決するものではありませんが、編さん事業を推進する当事者としては、今後の重要課題になってまいります。

この問題はとりもなおさず、保存から利用まで一貫して行える機関（「文書館」等）の設置が多くの問題を解決することになるものとし、本市では第三次総合計画の中で建設を検討しております。

事業年度も残すところ三年あまりですが、立派な市史を刊行していきたいと、関係者全員で、日夜努力を続けています。

（高崎市史編さん室長 山崎 諷）

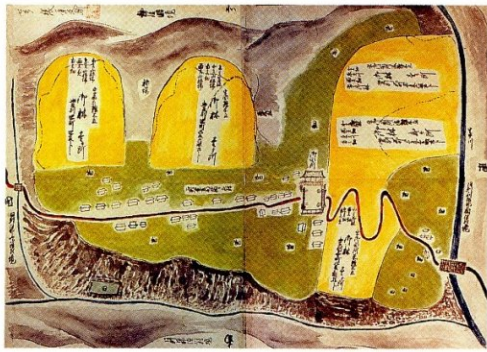


市史編さん調査

告知板

◎企画展「峠の向こうに何かが見える
〜三国峠を行き交う旅びと〜」のご案内
期間10月28日(土)〜12月3日(日)

近世の交通・経済において五街道に次ぐ重要な役割を果たした三国街道。その要所「三国峠」も、かつては多くの人々が様々な目的で往来しました。本展示では、その三国峠を行き交う旅人や物の流れに焦点をあて、本館収蔵の新治村諸家文書を中心に写真や地図なども併せてご



「猿ヶ京村絵図」(安政5年)
〔猿ヶ京区有文書〕

紹介いたします。関東と越後との交流も垣間見ることのできる内容です。

なお、11月12日(日)には、文学博士・元筑波大学教授田中圭一先生をお招きして記念講演会を開催する予定です。

◎平成12年度収蔵文書展

「一九〇〇の群馬(二)

―パリ万博と交通の発達―のご案内
▽会期 7月21日(金)〜10月4日(水)
月曜、祝日、月末日は休館

▽会場 文書館一階展示室 入場無料
一九〇〇年開催のパリ万国博覧会に本県から出品された特産品にかかわる文書や、一九〇〇年当時の交通の様子を伝える文書をご紹介します。

◎文書館編「ぐんまの古文書」の頒布

〔残部僅少〕

古文書学習用のテキスト等としてご利用いただくために、県内の70市町村で保存されてきた古文書から、おもに江戸時代の古文書二〇〇点余を選び編集した「ぐんまの古文書」は、おかげさまでご好評をいただき、残部があとわずかとなりました。

体裁は、B4判「写真編」上下二分冊、B5判「解説編」上下二分冊の計四冊箱入りで、一セットの価格が四八〇〇円です。お問い合わせは、文書館内の(財)群馬地域文化振興会まで。

(Tel) 〇二七―二二二―二三四六

◎「群馬県立文書館収蔵文書目録」18の発行

本目録は「利根・沼田地区諸家文書(2)」として主に利根郡新治村に伝存していた「原澤正明」「林孝雄」「河合雄一郎」「笛木昌二」「笛木四郎石衛門」諸家の文書絵計4909余を目録化したものです。

◎「群馬県行政文書件名目録」第11集(大正期事務編I)の発行

本目録は「行政文書簿冊目録第2集」(大正期行政文書編)の分類項目中「学務」のうち、「任免・賞罰」に属する文書四、四一一件を収録した二分冊中一冊目の件名目録です。内容としては、小学校や官立学校、私立学校などの任用や転任などが大半を占めます。

◎「群馬県立文書館収蔵文書目録」16の所収「解題」に対する追補

当館が平成10年3月に刊行した「群馬県立文書館収蔵文書目録」16「吾妻諸家文書目録(1)」所収「浦野恒彦家文書」の解題(166頁左)の中で浦野克彦(よしひこ)氏に関する神職の経歴が記されていみせんでしたが、このたび当館所蔵の行政文書等で同氏に関する神職の経歴(昭和7年群馬県吾妻郡長野原町村社「玉城山神社」社掌など)が確認されたのでここに追補します。



12・1・11 平成11年度第3回収蔵文書展開催(〜4月25日)

2・18 「ぐんま史料研究」第14号刊行

2・17 文書館運営協議会開催
3・31 「行政文書件名目録」第11集・「群馬県立文書館収蔵文書目録」18・紀要「双文」第17号刊行

3 ホームページ開設
(<http://www.edu.cpref.gunma.jp/kyouji/monjokan>)

4・1 文書館文書調査員23名委嘱
5・13 古文書解読入門講座(20日、27日、6月3日、10日修了式)

5・19 平成12年度第1回収蔵文書展(〜7月16日)

5・25 群馬県市町村公文書等保存活用連絡協議会(群文協)総会開催

6・8 行政文書管理委任、引継、収集作業開始(〜22日)

発行/群馬県立文書館
〒331-0201 前橋市文京町三二一七
印刷/松本印刷工業株式会社
字/岡庭征人書